

教育研修会

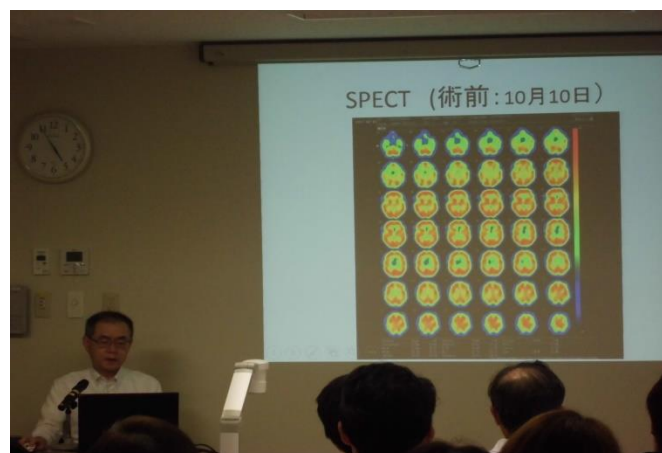
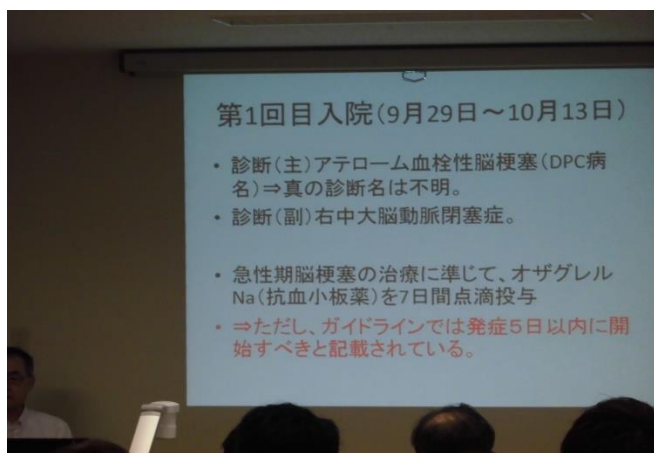
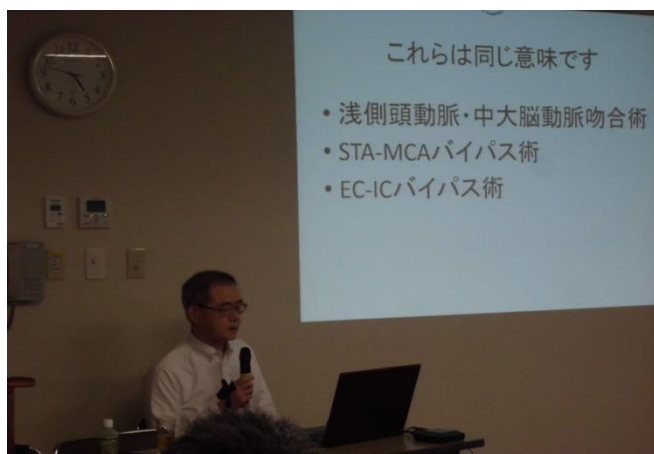
日時：H30年7月3日（火） 16時45分より開始

場所：新王子病院 4F 会議室 A

講師：済生会八幡総合病院 腎センター 西原学宣先生

症例：79才 女性 透析歴6年7ヶ月

講義中の様子です



本症例の経過として、目のかすみの症状があり近院眼科受診され右同名半盲が出現。脳梗塞を疑われ、済生会紹介され造影検査を施行するも脳梗塞はみとめられず。また、脳梗塞の症状とも一致されず、右中大動脈閉鎖症と診断。本来本人様との症状とは一致していないが脳梗塞としての治療施行。2か月後再度同様の症状が出現し、11月7日中大脳動脈バイパス術施行、以後眼症状なく経過されました。今回、脳梗塞での一般的に認められる麻痺や構音障害などの症状はない中で、Opeに至った経緯は執刀された先生がもういない為詳しい詳細は分からないとのことでした。講義の最後に西原先生は、透析患者はいろいろな合併症を起こしますが、そんな精神の中で患者さんに治療の判断を委ねることは難しく、患者と一緒に方針を考えていくにあたって、我々医療従事者は日々あらゆる疾患を学んでいかなければならないということを言われていました。またセカンドオピニオンを患者様へ提示することも有用であるお話もされていました。